



## 第40号

2024年12月

発行・編集  
甲賀市企業人権啓発推進協議会  
事務局  
甲賀市産業経済部商工労政課内  
TEL 0748-69-2188  
<http://www.ac-koka.jp/koka-kijinkyou/>

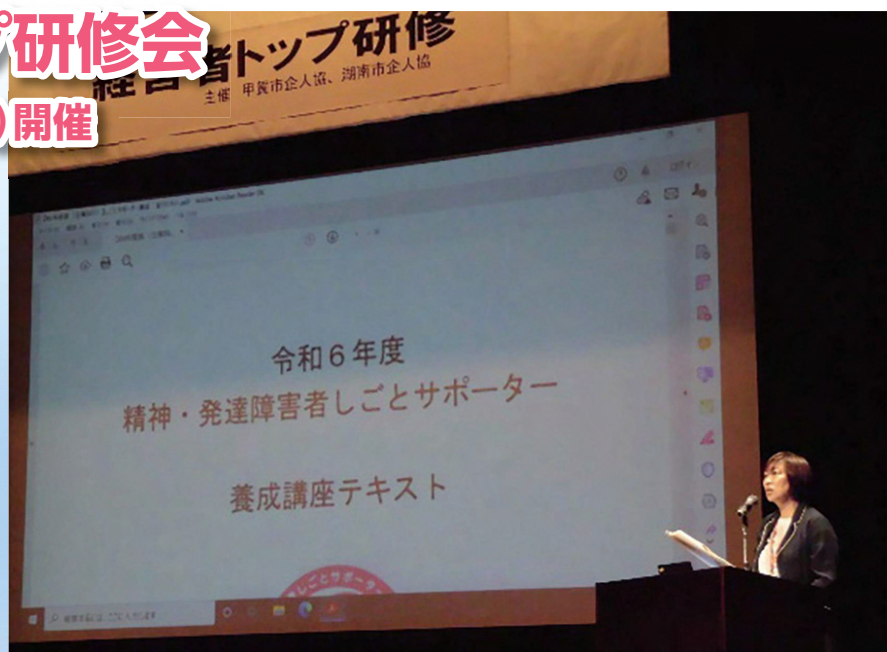
## 経営者トップ研修会

2024年7月10日(水)開催

2024年7月10日(水)に甲賀市碧水ホールにて経営者トップ研修会が開催されました。テーマは『障がい者雇用について』です。第1部では草津公共職業安定所の発達障がい者雇用トータルサポーターの本杉悦子様に「精神・発達障害の特性や共に働く上でのポイント」と題し講演を頂きました。共生社会を創り、働き方改革を進める上で障がい者雇用が大きなポイントになる事、そしてこれらの実践は社会的責任である事を学びました。また「精神障害」や「発達障害」の違い、そして精神疾患は誰でもかかり得るということが解りました。

また精神・発達障がい者への接し方では、経験を交えた事例を紹介いただきました。そのなかでは△〇□を書くというだけの情報では“おでん”を表現することは難しく“伝える事の難しさ”を、そしてそのために“よく話を聴く事”が大事であるという内容が強く印象に残りました。

引き続き第2部では、甲賀公共職業安定所 統括職業指導官の服部義忠様に“障がい者雇用にかかわる合



精神、発達障がい者について講演の本杉さん

理的配慮”について講演頂きました。ここでは、企業は障がい者の能力やニーズを理解し適切な業務内容や職場環境を整え、合理的配慮等を実施することが求められていますが、その実施にあたっては「障がい者からの社会的障壁の除去を必要としている旨の意思表示があった場合に義務を負う」という説明を受けました。具体的な配慮としては、点字案内、音声ガイド、手話通訳、バリアフリーの建物設計など機器や設備の配慮が、また視覚的サポート、静かな環境、フレックスタイム制導入などの環境、制度による配慮があることが解りました。ここで大事なものは、こうした合理的配慮は決して障がい者だけのためのものではなく、全ての従業員にとって働きやすい環境作りになるという事でした。改めて企業や雇用主は障がい者の能力やニーズを理解し、適切な合理的配慮を行い、障がい者雇用を促進することが求められていると認識させられました。

講師お二人の、ご自身の経験、体験を交えながらの講話に、あっという間に2時間が過ぎてしまいました。参加者は甲賀市(67名)湖南市(48名)合計(115名)

セキスイボード(株) 山本 英樹(記)



合理的配慮について講演の服部さん

## 第16回甲賀市人権教育研究大会に参加して

2024年9月14日(土)開催

2024年9月14日(土)碧水ホールにて『じんけんフェスタKOKA2024』第16回甲賀市人権教育大会が開催され参加させていただきました。

屋外ではブラジル料理キッチンカーやペルー料理等多国籍料理が出店、ロビー周辺ではバルーンアート、ボッチャ体験コーナーがあり楽しい1日を過ごしてきました。

今回のフェスタは『誰もが自分らしく生きられる社会をめざして ～知ろう 考えよう つながろう～』をテーマに開催され、ステージ上ではジンケンダーの登場による人権〇×クイズやZUMBA(ズンバ)による多国籍ダンス、マリネラ、サルサダンスが披露されました。

ラテン音楽とダンスを融合したエクササイズ、ZUMBA(ズンバ)は老若男女、誰でも参加できることから、世界150カ国以上で親しまれているとの事で、当日も車いすでの参加者やお子さまが楽しくダンスをされる姿を拝見し、多くの方に親しまれていることが納得できました。

実践報告発表では、甲南中部小学校の森野教諭と甲南中学校の辻教諭から学校現場での取組みの発表。また、地域を代表しばんたに自治振興会の岡村様、坂本様から子どもの居場所づくりと地域の交流と題し発表いただきました。

伴谷地区は人口増加地域で、個人の能力を発揮し自己実現を図ることや人と人の豊かな繋がり、共に生きることの大切さを根幹に、地域の子どもたちが



甲南中部小学校の実践報告(全体司会を当協議会が担当)

集う夏休み・冬休み教室でその実現を目指している取組を発表いただきました。このような取組みが市内各所でもっと広がり、子どもに限らずその関係者とも豊かに繋がり合える地域づくりになるよう行動していきたいと考えさせられました。

午後の記念講演では、講師に漫画家でタレントの星野ルネさんをお招きし『多文化共生とは～ちがいを楽しむ～』と題し、自身の幼少時からの体験を基にした自身のエッセイ漫画を交えてご講演いただきました。星野ルネさんはカメルーン出身で、幼少期には日本とカメルーンを行き来した環境で、当時経験した子ども目線と大人目線での感覚・思い込みに関しての違いについて楽しくお話しいただきました。

私たちは少なからず文化・価値観の違いで無意識に決めつけてしまっている現状があり、相手の背景を想像したり、相手を知ろうとできる豊かな心を持つことが重要で、意識せずとも自然に持ち合わせている自分で居られるようになりたいと思いました。無意識の偏見をなくし歩み寄り対話の重要性を再認識させられた大変良い時間となりました。

近江鉄道(株)土山サービスエリア  
田中 健二(記)



星野ルネさんの講演

# 人権フォーラム(ゲートキーパー養成講座)

2024年9月6日(金)開催

2024年9月6日(金)にゲートキーパー養成講座が甲南プララで開催されました。

滋賀医科大学医学部附属病院リエゾン精神看護専門看護師・光岡由紀子さんを講師に、『身近で悩んでいる人のサインに気づくために』と題して講演いただきました。リエゾンとは「つなぐ」「橋渡しをする」という意味があり、ゲートキーパーとは「悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと」を指します。

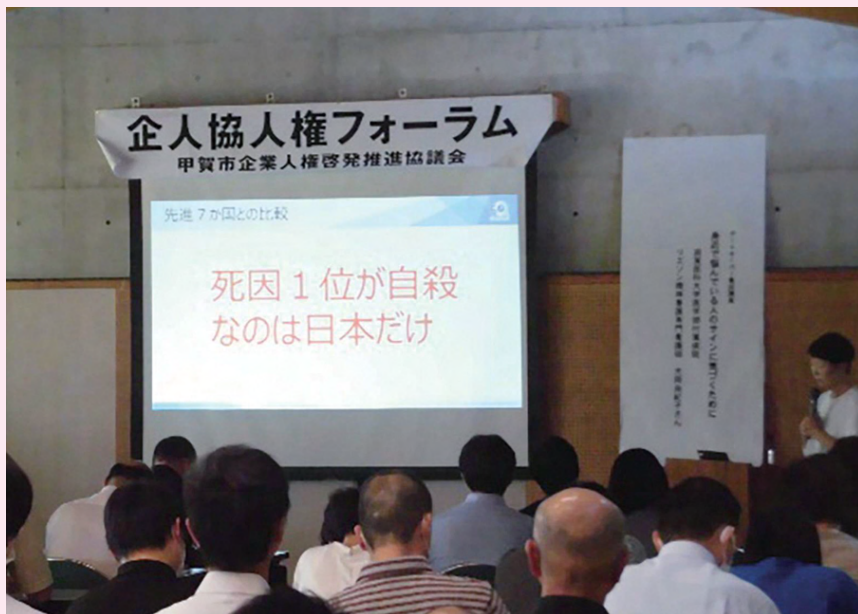
日本では1年間で約21,000人の人が自殺で亡くなっており、この数は先進7ヶ国で1位となっています。

また、死ぬことを考えている訳ではないが「駅のホームに飛び込むと楽になるのかな…」と考えてしまう人は少なくなく、不慮の事故には自殺予備軍が含まれていると考えられます。ですが、自殺を行動化するまでには段階があると言われています。「死にたいほどつらい」けど「死にたいわけじゃない」という段階があるので、ゲートキーパーはこの段階にある人に気づき、サポートをするという訳です。

ゲートキーパーには、①気づく、②声をかける、



質問をする参加者



光岡由紀子さんの講演

③聴く、④つなぐ、⑤見守るという5つの役割があります。特に大切なことは、不調はストレス反応かもしれないと気づき、声をかけることと、関心を持って話を聴くこと、解決しようとするのではなく気持ちを聴くことです。死にたくなるくらい辛い気持ちや今の状況について、一緒に考えたり、困ったりしてくれる相手がいることに意味があるのです。

私たちの職場に置き換えて考えてみても、他人事ではありません。ストレスを放置すると、心身の不調や思考・行動の変化といった形で表れ、適応障害やうつ病に繋がります。ですが、多少のストレスは機動力にもなるとも言われています。大切なことは「労い」です。人は苦労が報われたと感じる時にストレスは軽減され、次の意欲に変わります。労働環境を整えることはもちろん必要なことですが、環境を整えれば良いという訳でもないのです。人と人の繋がりの中での言葉の掛け合いが何より大切なことだと感じました。

社会福祉法人甲賀学園  
石田 一樹(記)

# 実践面接講座実施

2024年7月22日(月)開催

2024年7月22日に実施された実践面接会に甲賀広域職業対策連絡協議会進路保障部会の要請に基づき、甲賀市企業人権啓発推進協議会から5名を講師として派遣をしました。

当日は36名の生徒(養護学校を含む3年生)が、面接に臨む心構え・対応等を学び実際に模擬面接を体験しました。当協議会からの派遣講師は面接前の心構え・面接(アドバイスを含む)・講評を行いました。参加した生徒は1回目の面接でアドバイスを受けた事項を修正し2回目の面接で実践するなど、自分の考え方の発表・アピールの仕方などを学び、成果のある実践面接会となりました。

派遣した役員の方々は堤会長、本田副会長、藤岡副会長、山元健次様、倉田事務局長、事務局。



実践面接中の堤会長(右)



講評をされる面接官役の皆様

令和6(2024)年度

人権標語募集

12月4日(水)～12月10日(火)は **人権週間** です。

企人協では、人権週間の取組みとして『人権標語』の募集をしています。詳細については各企業・事業所に募集要項を送付していますので「啓発担当者」にご確認ください。最優秀賞1点(副賞:商品券1万円)優秀賞11点(副賞:商品券5千円)参加賞(商品券500円)を贈呈いたします。

皆様のご応募をお待ちしています。